

0157 などの腸管出血性大腸菌感染症について

感染経路

腸管出血性大腸菌 (O157 など) は、牛などの家畜の腸内に生息しています。そのため腸の内容物で汚染された食品等を介して、口から体内に入ることにより感染したり、患者や保菌者の糞便などから二次感染することもあります。話しをしたり、咳、くしゃみ、汗などでは感染しません。

潜伏期間 (感染してから、体に症状が出るまでの期間) と症状

潜伏期間 : 2 ~ 14日 (平均 3 ~ 5日)

症 状 : 下痢 (軽いものから水様便や血便)、腹痛、発熱など。重篤な合併症としてHUS (溶血性尿毒症症候群) があり、尿量減少、意識障害等を起こし、最悪の場合死に至ることがあります。

二次感染防止のために

- 普段から調理前や食事前はトイレの後は充分手を洗う。
- タオルの共用をしない。
- 乳幼児や高齢者のオムツの交換をする時は、使い捨て手袋を使う。

家族が患者となった場合の注意事項

- トイレなどの生活環境について
患者が排便した後に触れた部分 (ドアノブや蛇口など) を消毒する。
- 衣類について
患者の下着等は、消毒した後ほかの衣類と別に洗濯し、十分に乾燥させる。
- 入浴について
患者が入浴する場合はできればシャワーのみとするか、最後に入浴する。浴槽の水は毎日換える。
- 仕事について
患者の飲食物に直接接触する業務は、菌の陰性化が確認されるまで、法律で制限されます。飲食物に直接接触しない業務は制限されません。

菌の陰性化の確認

- 無症状の場合は、1回の検便結果が陰性。
- 有症状の場合は、24 時間以上の間隔をおいた連続 2 回 (抗菌剤服用の場合は、服薬中と服薬終了後 48 時間以上経過した時点) の検便結果が陰性。

消毒方法について

手指	(逆性石鹼液) 手洗い後、100倍液に浸して洗淨する。 (消毒用アルコール) 手のひらにとり、乾燥するまで手に擦り込む。
トイレ、洗面所、水道の蛇口、ドアの取っ手など手指が触れた部分	(逆性石鹼液) 50倍液を含ませた紙タオル等で拭く。 (消毒用アルコール) 紙タオル等を含ませて拭くか、噴霧する。
食器、おもちゃなど	必要に応じて、 (次亜塩素酸ナトリウム液) 0.02% (200ppm) 次亜塩素酸ナトリウム液に5分以上浸けてから、洗い流す。 (熱湯消毒) 80℃の熱水に10分間浸ける。
下着、シーツ類など	(次亜塩素酸ナトリウム液) 0.02% (200ppm) 次亜塩素酸ナトリウム液に5分以上浸けてから、他の衣類と別に洗濯する。

消毒液の作り方について

逆性石鹼液	(50倍液) 500ccペットボトルの水1本にペットボトルのキャップ2杯の薬剤を加える。 (100倍液) 500ccペットボトルの水1本にペットボトルのキャップ1杯の薬剤を加える。
次亜塩素酸ナトリウム液	(0.02%液) 500ccペットボトルの水2本にペットボトルのキャップ1杯の薬剤 (家庭用塩素系漂白剤 原液の濃度約5%)を加える